

訂正表

2026年4月17日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容	掲載日
P. 43	[No. 14] 解説1~4行目	<p>誤</p> <p>2次反応 $2A \rightarrow P$ は2分子のAによる反応であるから、反応速度定数を k として、微分方程式は、</p> $-\frac{d[A]}{dt} = 2k[A]^2$ <p>となる。<u>1回の反応において2分子のAが消費されるから、右辺に係数2が付く。</u>変数分離してこれを解くと、</p> <p>正</p> <p>反応速度定数は、光吸収、蛍光、電極などの検出方法により計測され、実験的に決定されている。本問では、反応物Aの初濃度が $1.0 \text{ mol} \cdot \text{L}^{-1}$ であり、計測には高すぎることから、反応速度定数 $5.4 \times 10^{-3} \text{ L} \cdot \text{mol}^{-1} \cdot \text{s}^{-1}$ は、生成物Pに基づいて決定されていると考えられる。</p> <p>これより、2次反応 $2A \rightarrow P$ は、1分子のPに対し2分子のAによる反応であるから、反応速度定数を k として、微分方程式は、</p> $-\frac{d[A]}{dt} = 2k[A]^2$ <p>となる。1回の反応において2分子のAが消費されるから、右辺に係数2が付く。変数分離してこれを解くと、</p>	2026/4/17

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/info/teisei/>)に掲載された日付です。